

領域別項目対照表

大学院名: (あくまでも一つの参考例として作成)

■科目番号と項目番号

研究科名: (あくまでも一つの参考例として作成)

別紙「科目番号と項目番号」を参照し、下表の科目番号項目番号欄に記入してください。

担当者名: (作成者) 大野精一

記入例 1-(1)、実1-(1)

科目名: 学校カウンセリング・コンサルテーション基礎
実習

No.	授業スケジュール	主な内容	科目番号 項目番号	(認定委員会記入欄)
1	MLT演習第1セッション1	MLTの説明とMLT演習 フィードバックは かかわりづくりに関わる内容を中心課題と する	実2-(1)	
2	MLT演習第1セッション2	同上	同上	
3	MLT演習第1セッション3	同上	同上	
4	MLT演習第2セッション1	MLT演習 フィードバックは傾聴に関わる 内容を中心課題とする	実2-(2)	
5	MLT演習第2セッション2	同上	同上	
6	MLT演習第2セッション3	同上	同上	
7	MLT演習第3セッション1	MLT演習 フィードバックはコンサルテー ションやコーディネーション等に関わる総 合的な内容を中心課題とする	実2-(3)	
8	MLT演習第3セッション2	同上	同上	
9	MLT演習第3セッション3	同上	同上	
10	総括的なまとめ	カウンセリング・プロセスやカウンセリング・ コンサルテーション・コーディネーション等 の自己評価を含んだ総括を行う	同上	

学校カウンセリング・コンサルテーションを効果的に行うための三つの基礎的な条件(①相手を理解できる、②自分の意図を実現できる、③相手と自分の関係をモニタリングできる)を実習により学習し、実際場面の中で実現できるようにする。本授業では、小林純一教授考案のMLT((a new micro-laboratory training 新マイクロ・ラボラトリー・トレーニング)で実習を行う。参加者(24名を想定)を三つのグループに均等に分ける。この各々のグループが、以下説明する三つの役割を交代しながら取って、一巡していくことになる。こうして各役割で取得・体験できた能力を第一の役割に生かしていく。第一の役割は、テーマは何でもよいから相互に知り合うようにして自由に話し合うことである。思い切って、わかり、わかり合うようにする。このことにより、他者と積極的にかかわり、人間的な信頼関係を形成していくという学校カウンセリング・コンサルテーションの核心を体験的に学ぶことになるのである。第二の役割は、第一の役割を取っているグループの中から一人を選び、その人をよく見て、話すことをよく聞き、その人が何を話したか、どんな気持ちを感じながら話しているか、どのように変化していったかがあるがままに観察することである。このことによって他者を集中的にわかる訓練をする。第三の役割は、第一の役割を取っているグループの中にどんな雰囲気が流れているか、また、このグループの人達は何をしているのか、全体として何が起きているのか、どう変化しているのか、こうしたプロセスをあるがままに観察することである。このことによって、面接時の自己モニターリングの力量をつけることになる。こうした各役割が円滑に取れるようにするため、参加者は、二重円になって椅子に座る。内側には第一の役割を取るグループが、外側には第二・三の役割を取るグループが座る。その際、第二・三役割グループは交互に座る。また第二役割グループの中での並び方は、自分の観察する第一役割グループの人がよく見える位置に各自座ることになる。具体的な各回の進行は各一回ごと90分で、先ず第一役割グループが10分弱話し合う。これをうけて、第一・二役割グループの各観察者・被観察者が話し合い、自分の観察が正確であったか確かめる。これによって第一役割グループの各人をよりよくわかるようにする(40分)。次いで、第三役割グループに属する人が一人ずつ自分の観察したことを、全体に向けて報告する(10分)。以上をうけて、再度、第一役割グループが20分弱話し合う。その際、第二・三役割グループに答える感じで、自由に話し合い、自分や自分たちは何を話したか、など相互にわかりあうようにする。これが終わった段階で、さらに全員で質問や確かめてみたいことを自由に出し合う。最後の10分間で、感想および今の自分の感情を評価する。この後、役割を交代して同じく2回続けていく。これで参加者は各役割をすべて体験することになる。これを1セッションとすると、さらにグループメンバーを変えて2セッション行う。なお、各セッションの話等は、参加者相互だけのものである(秘密保持の原則)。最終セッションで総括的なまとめを行う。

※シラバスを添付してください。(今回は、上記の記述でシラバスに代えている)